



## どよう ひ た 土用のうしの日はどうしてウナギを食べるの

### えどじだい ぶんじん でん 江戸時代の文人がせん伝した

えどじだい おおたしよくさんじん ぶんじん こうぶつ や  
江戸時代に太田蜀山人という文人がいて、たいへんウナギが好物でしたが、ウナギ屋  
はんじょうさせるために、どよう からだ とく ひ  
土用ウナギはとても体にいい、特にうしの日にはいいとせん伝  
したそうです。それが、いま い つた  
今でも言い伝えられているというわけです。

### かがくしゃ か 科学者がウナギのかんばんを書いた

もうひとつのせつは、やはりえどじだい かがくしゃ ひらがげんない や  
説は、やはり江戸時代の科学者・平賀源内がウナギ屋からたのまれてかん  
ばんを書いたのが、どよう ひ とうじ ゆうめい せんせい たいしよ  
土用のうしの日だったそうです。当時の有名な先生が大書したものと  
ひょうばん や だい いま つた  
いって評判になり、ウナギ屋が大はんじょうし、それが今でも伝えられているというわけ  
です。

そのほかにも、せつ なつ とうじ ゆうめい  
いろいろな説がありますが、ウナギが夏やせにいいという、当時の有名  
じん でん や しょうはい いま しゅう  
人のせん伝がうまくウナギ屋の商売とむすびつき、今では習かんとなっているといえそう  
です。（監修・保岡 孝之）

